関大
発行所
関西大学校友会
大阪市大淀区長柄中通二丁目
編集発行人　佐伯五郎
電話　大阪㊱代2072番
振替口座大阪　55594番

まだ続く？私大の施設拡充ブーム

創立記念ビルラッシュ

だが楽ではない〝台所〟

戦後の混乱から立ちなおったころから東西の各私立大学で〝創立○○周年記念〟と銘うったビル・ラッシュだ。こんなところから「私大は金もちだ」という世評がおこり、大学を〝株式会社〟呼ばわりする声もでてきた。

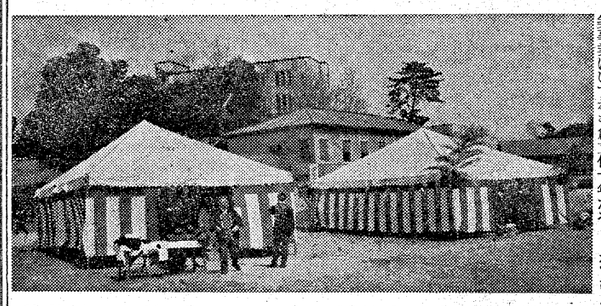
しかし、私学は決して金もちだからどんどん学舎を建築しているのではない。しかもこのブームは一段落の感がないでもないが、まだまだ続くものとみられる。

そこで今月は私大の建築ブームの実態と、その底に流れる問題点をさぐってみた！。

続々建つ〝豪華版〟やはりまだまだ続く

まずはじめに私大の建築ブームをみてみよう。

そのほとんどは〝創立○○周年記念事業〟と銘うったものである。これは多くの私大がいずれも創立以来何十年かたったため、私学のはじめといわれる慶応大学も先年百年を迎えたのをはじめ早大、明大、同大が八十年、関大が七十五年、日大、関学大が七十年、立命大が六十年…とそれぞれ記念すべきときを迎えている。そして建築事業はいずれも創立何十年かを記念した〝母校拡充計画〟だ。これらの計画を進めるためには、私立学校振興会からの借りいれ金はじめ、市中銀行の融資などもあり、さらに大きい校友の寄付金というバック・アップがある。事実数億にのぼる寄付を集めた大学もある。



明治・早稲田大学の場合

八十年記念事業推進中の早大などもすでに八千万円の寄付がよせられている。また明大でも教育施設の整備拡充をめざして創立八十周年記念事業をつづけているが、さしあたって二十億円の募金額を目標にしている。

明大の場合はこれによって、四月号「学園だより」にも紹介したように教室を主とした記念一号館併究室等の二号館などを建てるほか、計画の最終目標である五億円募金を達成すればつづいて学生会館建設、奨学制度の創設、学術調査団の海外派遣などを行なう計画だ。

関大でも第五学舎をいま建築中で、今秋には図書館の東方に設備の整ったものができる。

日本大学の場合

また日大には現在二万九千名の学生がいるが、ここでもこの種事業の推進で都心に相当ひろい校有地と、二万五千平方㍍の延べ面積の学舎をもっていたった。これらの大きい事業のほか、ほとんどの私大は付属高校、中学校などをもっており、その施設拡充にも相当の力を入れている実情である。

関西の方はどうか？

一方、目を関西に転じると、同大の八十年記念事業、関大の七十周年記念事業、関学の七十年記念事業などがあげられよう。関大の場合はすでに本紙でも順次報じた通り、二回にわたる五カ年計画を実施し、第一、二、三、四学舎のほか、大学院、大学ホール、法文研究室、図書館、西研究室、体育館、工学部実験実習場…その他天六舎、高、中、幼などの施設を備え、今第五学舎を建築中だ。

関西学院大学の場合

また関学大では創立七十周年を記念し二億八千万円にのぼる募債を達成し、すでに経商研究室、学生会館、体育館、記念チャペル、社会学部学舎など延べ一万三千平方㍍の学舎をたて五万平方㍍の総合運動場をつくりあげた。体育館は関西有数の完備したもので話題となったものだし、学生会館も〝生協〟のデラックス版の舞台にも大いに利用されている。またこのほか記念事業として理学部学舎と実験棟、神・文・法・社教授研究室、図書館、西研究室、体育館、工学部実験実習場…その他天六舎、高、中、幼などの施設を備え、今第五学舎を建築中だ。

関西大場の場合

ふりかえって関大の今後の建設計画をみると、学生会館となる第五学舎が目下建築中であるほか、千里山に体育館、プール、図書館書庫、一高体育館、第三グランド…とまだまだ大きいプランをかかえこんでいる。

将来の予想は？

このように東京、関西の各私大の実情をみると、どこでも〝目下進行中〟が多く、すでに完了したところでも〝一段落〟といったところだ。このぶんでゆくと、どの私大でもまだ当分はこの建築ブームが続くとみられよう。

80年記念事業の一環としてこのほど完成した明大記念一号館

このようにどこの大学も〝学舎建築ブーム〟はこの当分つづきそうだ。

施設　何とか旧制官立並に くりかえす〝悪循環〟

しかし、これは決して私大が金もちであるから建てているのではない。そこで考えなくてはならないのが、官公立大学と私立大学の施設の差である。現在、その差はなくなったが国費でまかなわれる旧帝大級官立大学の施設の規模などはもはや説明を要しないだろう。もちろん公立の地方大学の中には二、三流私学にもおとるところもあるにはある。その反面、関大の工学部のように最新の設備を整えて関係各界から注目を集めているところもある。

第二次世界大戦の末期に日本本土は爆撃による痛た手をうけた。そのために大都市とその周辺にある大学は官公私を問わず被災した。文部省の調べによると戦災を受けた私立学校は大学・高専八十二、中学校二九二、教室は延べ百十万平方㍍にのぼっている。その次におしよせたのが、インフレによる私学の経営不振であった。しかし、こんなときでも官公立大学は公費で着々と復興を進めていった。その結果、私学とのアンバランスは一そうひどくなった。

〝豪華版〟で有名な関学大の新体育館。右後方も新造の社会学部学舎。

そこで教育を分担している私学側は国家補償を求めて団結した。しかし当時は私学援助は違憲だという見解がでたりしたため、昭和二十四年に私立学校法が施行され私立学校は財団法人から学校法人に組織がえした。そして私学復興に本腰をいれるため二十七年に私立学校振興会という特殊法人を結成、資金は全額国庫負担で全国の私学にかしつけその経営を援助することになった。

振興会設立以来、三十五年度までにかしつけた資金は合わせて一六五億三千万円にのぼり、私学側はそれで四百万平方㍍の新築改修、四百万平方㍍の土地入手などを行なった。この種借り入れ金を主とした臨事部予算はどの大学も相当な額にのぼっているが、このうらには旧制官公立大学に施設の面で追いつかねばならないという問題があった。時代はかわり、施設の完備しない大学へは受験生が関心を示さなくなったからだ。

ここまでくると、私学を株式会社呼ばわりして「君の学校はよくもうかっているネ」といったりする考え方がくずれてきて、なぜ私学は施設拡充競争をしなければならないかがはっきりしてくる。官公立大学に追いつかなくてはならぬと同時に、私学間の競争もあるわけだ。

このように建築事業を進めると、財政的に余裕のない私学では必然的に授業料等値あげ問題がもちあがってくる。そして授業料をあげると施設その他で学生に対する見返りをまた考えなくてはならず、それを補なうために学生数を増やす必要がでてくる。こうして私学は、どうにもならない悪循環をくりかえして行くことになるのが実情だ。

これをどう解決するかは私学全体――国家の教育行政にとって重要な問題である。

抜本的な私学援助措置が必要だがさしあたっての問題には、私学に対する寄付金の免税問題、産学協同の問題など目前に数多くの問題が私学全体の前に山積していて、一歩一歩解決してゆかねばならないのだ。

論壇

政防法と学生デモの反省

一、学生デモの本質と効果

今回の政防法案反対を目的とした学生デモに大衆輿論はどのような結論を与えたであろうか。新聞やテレビ等の報道は異口同音に学生デモに警告を与え、その反省を促している事実と、これらの報道を通じて社会大衆は何を感得したであろう。また交通マヒと学生の渦巻きジグザグ行動を目撃したり、学生と警察官とが入り乱れ、血相をかえその乱闘を直接見たり、テレビで見たりした人々、大衆は学生運動としてのデモを理解し、果してこれに共感を持ったであろうか。少くともそのデモに直接間接につながっている一部特定人を除く社会大衆は憎悪の念を深うし、学生はこれでよいのであろうかの疑惑を新たにしたようである。こんな結果、こんな世評を増大して学生諸君は果して当初計画したデモの目的を実現したとはいえまい。今回の政防法案に対する学生デモは明らかに失敗であったといえよう。政防法案は今国会で成立を見なかったから、学生デモは成功したというかも知ないが、それが学生デモの効果によるものとの目的が達成されるといえよう。デモを単なるお祭り騒ぎにしたり、交通マヒの原動力となって市民に迷惑をかけたり、警察官と衝突乱闘して社会から憎悪されるものにしたのではないか。

少くとも学生デモである。デモの本質に徹した行動をしてこそ、学生デモの効果を実現することをあえて反省しなければならない。

二、学生デモと学生本分

世間のある人々は学生デモがあり流血の惨事を起こすたびごとに、近頃の学生はあれでよいだろうか、親のスネカジリで大学に行き、ロクロク勉学もせずに赤い学生運動に身を投じ、デモのあるたびに参加して騒ぎ、警察官を〝税金ドロボー〟と罵倒し、衝突し、負傷したり警察に拘留されたりして周囲の多くの人々に迷惑をかけ、自分は学業を平気で放棄しても、しかも英雄的になったり、果敢な闘士や、リーダーになって喜んでいる困ったものだ。学校当局はあのようなことを平気で許容しているのだろうか、あのような学生が卒業できるのだろうか、また卒業しても就職先があるのだろうか、といっている。またテレビの画面でデモ騒ぎの中に我が息子の姿を発見して病床についた真面目な気の弱い母親が多数にあると聞く。このような世俗を単なる世俗と看過し、軽視するわけにもいくまい。学生を預り、収容している学校を教授する大学当局も学生の団体的社会行動や、デモ活動には深甚の考慮が必要で、授業放棄までして、デモ行進に参加する学生に対しては統制秩序の立場からもなんらかの措置を構すべきであり一面学生には学生の本分がある。学生自身でその本分を認識し自覚し、学生本分に反する行動は切に慎しむべきである。大学の学生自治会も合目的的行動から外れないよう自省すべきで、われわれは学生デモを直ちに排除排撃するものではない。社会から疑惑視されたり、ヒンシュクされたり、憎悪されて、デモの目的が外れ、反作用を起こし、マイナス効果を招くような、学生にあるまじきデモ活動は慎しんでもらいたい。反省してもらいたい。且つ責任を併せ考えてほしいものだ。その反面、学生本分を完了してもらいたい。そして、冷静なる社会良識人、知性人は常に将来夢多き、若い学生等の行動を野放しにせず、愛情と理解を基礎として、観察し、監視し、正しい批判と誤りなき誘導をしてもらいたい。それは政治運動にしても、社会活動にしても、赤い運動、黒い運動を問わず、学生運動、学生活動の全般についても公正な次第である。

日本人会員もホスト役

国際ロータリー大会終わる

去る五月二十八日から五日間にわたって東京晴海を会場に開かれた国際ロータリークラブ大会には外国から約七千五百人が参加、日本人会員もホスト役として加わり、無事盛大に行なわれた。

これは社会人のオリンピックとまでいわれるもので日本で開いた国際的行事としても最大のもの。七十二国が輪番で会場をもつからあと七十二年しないと日本にふたたび来ない。関大校友のなかからも、中谷政男、西尾専太郎、福岡彰郎、松本芳太郎の四氏が参加した。

故岩崎博士の蔵書　関大へ寄贈

貴重な文献「岩崎記念文庫」に

一周忌法要も盛大に営なむ

昨年六月に逝去された元関西大学長・故岩崎卯一博士の一周忌法要がさる六月八日午後一時から京都醍醐天竜寺で行なわれた。

この日は岩崎ヌイ夫人と遺族はじめ大学関係者、大阪府関係者、教え子ら多数が列席し、盛大に行なわれた。

また博士の一周忌を迎えたのを機に約五千冊にのぼる博士の蔵書が関西大学におくられることになった。これは故人の意志をついで、ヌイ夫人から大学当局へ申しでられたもので、内容は法学、政治学、社会学の分野にわたる貴重な文献で洋書、和書、和・洋雑誌である。

大学側では貴重な学術図書が多数あることから理事会で学長、図書館長の意見を参考にして協議した結果、寄贈の申しいれを受けることになった。また教授会では好意を受け、大学にぜひ「岩崎記念文庫」をおき故人の遺徳をしのぶとともに大学関係者の研究に資することにしようと決定したもの。

これで近く図書館に「岩崎記念文庫」が生まれることになる。関大図書館にはすでに英文学者として有名な細江逸郎氏からおくられた「細江文庫」（英文学関係約十八百冊）、大阪に育った泊園書院の蒐蔵書である「泊園文庫」（約二万冊）、「東京国際裁判記録」「生田文庫」（万葉関係約十五百冊）、「吉田文庫」（中央アジア関係約二千冊）など貴重な記録や文献が多く「岩崎文庫」はさらに花を添えるものとなろう。」

第一回　泊園講座ひらく

功績たたえ記念会発足

定期的公開活動めざす

大阪の地にゆかりの深い、藤沢家四代にわたって大阪市民に沮渠学を講じ庶民の教養を高めることに大きい功績を残した大阪三塾の一つ、泊園書院の功績を顕彰する第一回泊園記念講座が六月三日午後二時すぎから朝日新聞大阪本社講堂で開かれた。

定刻には一般市民、学生、関係者らで会場には会然空席がない盛況であった。

関西大学教授・高橋盛孝博士の司会ではじめられ、同・横田健一氏がかんたんに開会のことばをのべついで藤沢家第五代の作家・藤沢恒夫氏が泊園書院の文庫の思い出話などをまじえてあいさつした。

講演の部にはいり、はじめに関西大学学長・矢口孝次郎博士が「日本の近代化と大阪の町人」と題して約一時間にわたって講演、休憩のち京都大学教授・吉川幸次郎博士が「中国文学における希望と絶望」と題して講演した。

これは本紙前号で紹介したように藤沢家四代、関大名誉教授・藤沢章次郎博士の死去によって義弟、関大教授・石浜純太郎博士にうけつがれ、二万冊にのぼる文献も五代・藤沢恒夫氏から関大へ寄贈されたりしたことから関係者、市民のあいだで記念会をつくって公開講座など顕彰行事をやろうという計画が実を結んだもの。同じく江戸時代に大阪三塾といわれた他の懐徳堂、適々斎塾はすでに阪大にうけつがれ、公開講座が開かれている。写真―第一回泊園講座

本格的活動にはいる

総合郷土誌「上方文化」も発刊

昨秋創設の大阪文化研究所

大阪文化の総合的学術研究を目的として、昨年秋、大阪文化研究所が創設されたが、五月に機関誌、「上方文化」が創刊されいよいよ本格的な活動にはいる。

研究所では学術研究書、普及書などの企画・編集・出版や史跡・資料の調査と保存、講演会、見学会・研究会などの開催なども行なう計画で、運営が軌道に乗ってきたら市町村史・伝記などの編集、研究の助成などに手をひろげてゆくことになっている。

研究所のメンバーは代表理事に末永雅雄博士、所長には大阪経大教授・木村武夫氏が就任したほか、理事には有坂隆道、飯田正一、井上薫、岸本準一、黒羽兵治郎、小島吉雄、時野谷勝、宮本又次、横田健一の各氏がならんでいる。また評議員には鍔方貞亮、井上吉次郎、岡本良一、加藤三之雄、沢田四郎作、柴田実、辻部政太郎、奈良本辰也、望月信成、吉永孝雄氏らが就任し、監事は金子又兵衛、武藤誠両氏という顔ぶれである。

研究所ではすでに昨年十月一日に創立記念講演会を開き、つづいてすでに二回の講演会と見学会一回を行なっているが、郷土雑誌としても充実した内容をもつ「上方文化」の創刊を機に本格的な活動にはいるものとみられる。

なお、この会員には維持会員と購読会員とがあり、維持会員は普通会員は年額二千円（一口）以上、特別会員は年額一万円（一口）以上納めることになっている。購読会員の方は「上方文化」の定期購読で年一千円となっている。

待望のソンシート　いよいよ売りだし

校友会事務局でとりつぎ

本紙四月号に報じた関西大学の学歌、学生歌、消滅歌を吹きこんだソノ・シートがいよいよ一般校友にも売りだされることになった。これは関西大学はじめてのことろみとして今春作成し、卒業生に記念として贈ったものと同じで、大きさは13×21糎、一面に千里山学舎の全景が色刷りされている。内容は学歌、学生歌、消滅歌の順に全部吹きこまれており、演奏は全国的に上位にしあがった関大グリークラブと、大学吹奏楽団屈指の関大応援団吹奏楽部。歌詞を印刷したカバーに入れてある。ねだんは送料とも一二〇円。校友会事務局でとりついでいる。

新館落成
国際観光旅館
錦溪温泉油屋
営業主　山田　清（昭19卒）
南海高野線三日市町下車すぐ（ナンバより45分）
電話河内長野　14.338.356
大阪案内所　㊼　8590

学園だより

立命が校友会館建設資金を募集

立命館大学では創立六十周年の記念事業の一つとして校友会館をたてる計画であるが、校友会事業として生命保険契約のあっ旋をしているため、その割りもどし収入のほか一般校友から寄付をつのることになった。（立命館学園新聞から）

立教大学社会学部にIBM

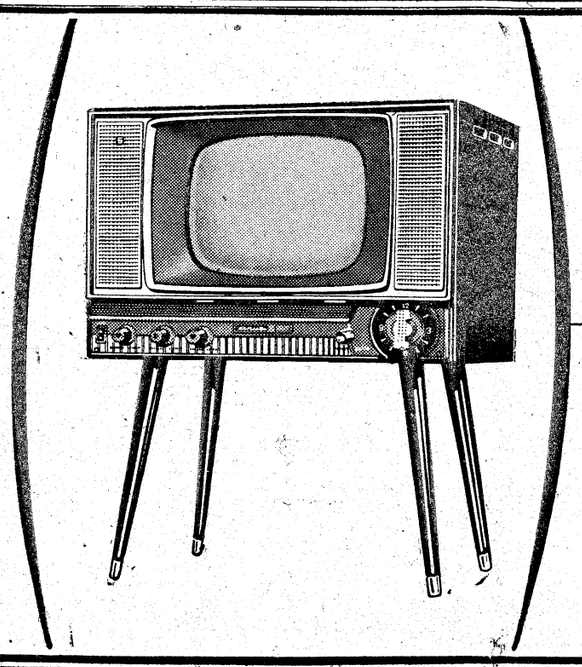
立教大学ではこんど、社会学部にIBMをいれた。これは文部省の助成金の一部で購入した。

お座敷・北京料理
天山閣
生玉境内　電話　㊼　5611～5614

設計・施工
吉崎建設株式会社
取締役社長　吉崎　清
大阪市西区土佐堀通三ノ五六
電話㊹一三六三・五七九五
東京・名古屋・福岡・宮崎

内閣総理大臣賞ニ輝ク最高位ノ技術
紳士洋服・高級服地
片野洋服店
大阪市東区北浜3電停前　電㉓0565～7
大阪駅前店第一生命ビル専門大店㊱6717

ボーナスがボーナスを生む
最も有利な貯蓄
三井の
貸付信託
1口1万円・元本保証
予想配当率（5年もの）7分3厘7毛
（案内書をお送ります）
三井信託銀行
梅田　扇町線曽根崎署東
大阪　高麗橋・三越北隣
大阪南　御堂筋道頓堀橋北



あなたにかわって
完全に自動調整する
電子同調
2つの電子装置の精巧な働きで、いつも、ハッキリした画面・美しい音を楽しんでいただけるテレビです。
AFT<自動微調整>装置つき
ABC<自動明暗調整>装置つき
14―F25型　超遠距離用
2スピーカー・プレヤー接続可
現金正価　61,000円
SANYO
サンヨーテレビ
三洋電機株式会社

新しいサービス！
全店扱普通預金
北は北海道から南は九州まで全国どこの大和銀行でも　お出し入れのできる大変便利な預金です
大和お買物預金
貯蓄をたのしみながら　現金をもたずに百貨店でお買物ができます
海外旅行資金信託
月々のお積立と　最も有利な利回りで夢の海外旅行が実現できます
住宅信託
貯蓄と融資の組合せで　あなたの住まいの夢が実現いたします
天六阪急ビル一階
西側TEL㉟6831
お気軽におこし下さい
大和銀行
天六支店

あすなろの支部から

信貴山『玉蔵院』で総会
新緑の情緒を満喫
旭支部

旭支部春季総会は、会場を新緑にむせぶ信貴山『玉蔵院』にうつして、五月二十二日、曇り空にもかかわらず午前十時に旭区役所前を観光バスで出発、寺西支部長ら五十数名が出席して開かれた。

山上に到着すると、いそがしいなかをかけつけてきた久井専務理事があいさつ、母校の現況を報告して映画『大阪の華』を上映した。そのあとついて総会に入り、来賓として出席した校友会・門上組織部長、経済学部長・松原教授、法学部・桜田教授らがそれぞれ招かれた喜びを語り、なかでも学術研究員として海外渡欧中をのぞいては、毎年、旭支部総会には参加を欠かしたことのないという松原教授には、ひとしお、その感が深いようであった。

韓国・慶南支部
ソノ・シートに母校を回顧
校友会事業に協力約す

先五月は各地支部で新卒歓迎会をかねて春季総会が盛大に催されたが、遠く祖国を離れた韓国の慶南支部でも、先頃、春季総会が催され、その時の模様が、釜山大学に勤務の辺洪鎬支部長から知らされてきた。

総会は五月十四日釜山近郊の松島海浜で開かれた。参加人員は予定より少なかったが、今春、母校ではじめてのこころみとして卒業生に配布した学歌、学生歌、逍遥歌を吹きこんだソノ・シートをかけて全員学歌などを合唱、過ぎし日の母校学生生活をしのびつつ、校友名簿、母校七〇年史、校友会紙「関大」等を閲覧したりして母校の発展ぶりを喜びあった。そして六月末までには、まず、校友会費を一括して送ろうということを決議し、さらに校友会の事業に協力すると同時に、母校関大の向上発展のために寄与することをちかいあった。

なお、役員改選も合わせて行われたが、支部長以下全役員がそのまま留任することになった。

川西支部
同好会で支部づくり
あすなろうゴルフ会発足

川西支部では、五月二十七日、支部長寄贈杯の校友ゴルフ大会が行なわれたのを機会に、二年ぶりの総会を開くことになっていたが、最近、支部活動があまり振るわず、新卒者の掌握も十分でないという反省から総会を取り止め、同夕七時から花屋敷ゴルフ倶楽部で役員会を行なった。

席上、支部顧問の藤井健造氏から支部員の親睦のため、ゴルフ同好者の集いをつくろうとの提案があり、花屋敷ゴルフ倶楽部所属校友の「花屋敷秀颯会」の第二軍ともいう「川西関大あすなろう会」を創ることに一致、同ゴルフ会社役員の久保三毛、西氏ならびに関大OB秀颯会長森井氏らの好意で、今後、毎週金曜日午後四時から、同ゴルフ場のレッスン場で、藤井氏らの指導を受けることにした。

会費は月三千円で貸クラブも備え付けようと意気込みはさかん。申し込みは池田二三三六番三宅までとなっている。

なお、当支部では、ゴルフだけに限らず、同好会活動に力を入れる考えで、名園鑑賞会やバラ造りなど、レジャー時代にふさわしいプランもねっている。

短大同窓会
会長に西尾氏を選出
八十数名が集まる

短期大学同窓会が、五月二十一日（土）午後二時から、天六学舎四十二教室で八十数名が集まって開かれた。昨年、一、二部にわかれて以来、その結果をいろいろと論議されていたが、今回もその問題が討議され、結局、短大同窓会としては、そのまま形とするが、運営は一、二部にわかれて独自の行動を行なうことが出来るということを決議。役員改選にうつり、左記の役員を選出した。

会長　西尾高行
副会長　畑末良政、大谷訓将、平島徳二
監事　横山茂昭、徳井安雄、石坂俊文子

宝塚支部
紅一点をまじえて
七月一日には例会を

宝塚支部総会が六月三日（土）午時七時から「宝塚ホテル」で約二十名が集まって開かれた。

相談役　大森俊次

なお、理事として、別に各部各期から二十四名を決定した。

定刻には出席予定会員十六名が全部顔をそろえ、一同そろって記念撮影のあとテーブルをかこんで開宴、よもやま話に花をさかせた。

出席会員のなかには校友会長をつとめる大月伸氏や母校の経理局長の要職にある桂恵雄氏、光和精工会長をつとめる山口定晃氏らそうそうたる顔ぶれで、幹事・横田長次郎氏らの熱心な世話で毎年かかさず例会を開いて旧交を温めている。写真・六会会記念の寄せ書

六会と催し

六月二十四日（土）東支部総会が午後六時から「農林会館」で二年ぶりに開かれる。

六月二十九日（木）羽曳野支部総会が午後六時から道明寺（尼寺）で役員改選その他趣味クラブなどを作ることを検討する。

七月一日（土）宝塚支部例会が午後六時から「宝塚ホテル」で行なわれる。

例会で旧交あたためる
大正六年卒業の六念会

六念会では、はさる五月二十日の土曜日、午後四時半から大阪閣・東天閣で今年度の例会を開いた。

母校に記念品を
卒業30周年を迎えて　昭六会

卒業してはや三十年を数えた昭六会では、六月三日（土）午後二時から千里山大学ホールで、恩師の河村信一、中谷敬寿両教授を招いて十数名が集まったが、その席上卒業三十周年を記念してそれにふさわしいものをという話し合いが行なわれ、結局、記念アルバムを作ることと、そして母校にも記念品を送ろうではないかということになり、阪口孝作造「結晶紬桃花瓢葉文壺」を卒業三十年記念品として贈呈することになった。

電々公社関大会
講演「最近の国際情勢」をきく
会長には辻義満氏が重任

電々公社関大会は、五月二十七日（土）午後一時半から、大阪・北区玉江町一の電々会館で百余名が集まって春季総会を開いた。

母校のPR映画「大阪の華」などを観賞したのち、朝日新聞社論説委員・浜崎則雄氏の「最近の国際情勢」についての講演を傾聴した。なお、当日は役員改選が行なわれ、会長には辻義満氏（関大電報電話局長）が再選されたほか、副会長に大野幸一郎氏（大阪市外電話局会計課長）伊予田勲氏（経営調査室調査役）らが選ばれた。

新会員をはげます
大阪府庁秀颯会春秋会

職域支部として幅広い活躍をしている大阪府庁秀颯会の若手グループで結成している春秋会では、五月三十日新卒新入会員一名と府庁に勤務のかたわらめでたく卒業した四名の会員の歓迎ならびに祝賀会を開いた。

本来なら秀颯会が催すところを今回は例外として春秋会が主催したもので、寒川労働部長、藤田広報課長代理、山本用度係長ら秀颯会幹部ら約五十名が出席、今後の活躍を期待するとともにその健闘をはげましあった。

支部長に木梨氏が
石川支部

石川支部では、このほど新役員を決定したが、その結果、支部長に木梨与松氏がそして小間井与一氏は顧問になった。なお、支部あての連絡は従前通りである。

新役員
支部長　木梨　与松
幹事長　松林　禧作
顧問　小間井与一、塩田統雄、松永　善光

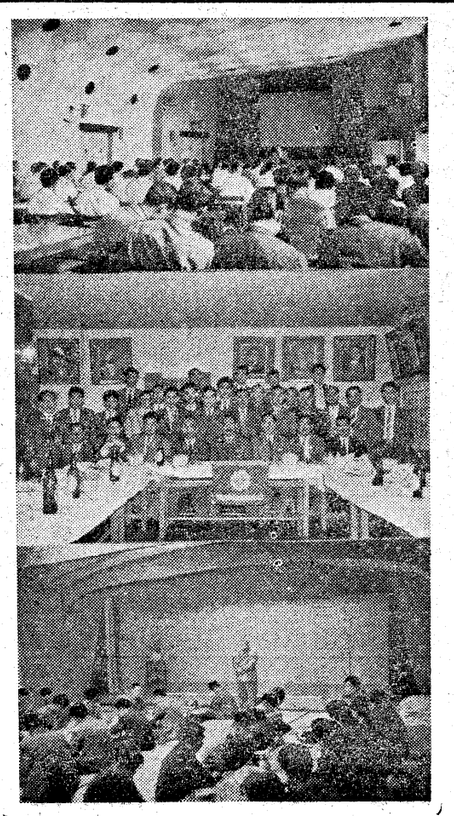


写真　上から大阪国税支部、岸和田支部、千秀会の各総会風景

忘れられた歴史をたずねて

羽曳野、富田林両支部古墳見学会

末永博士に聞く 古市古墳群の驚異
林　信夫

われわれの祖先が、生活し、その繁栄を楽しんだ古い土――日本で一番規模の大きい古市古墳群のたたずまいは、関西大学教授で、わが国考古学界の権威・末永雅雄博士の説明を通で、郷土への関心を高めるとともに、古代人の雄壮な精神を目のあたりに見た。

大阪府羽曳野・富田林両関大校友会支部の「郷土の古跡をたずねる会」が、五月十四日に行なわれたときの印象は強烈であったとともに、これからの、支部活動の一つの型を示したものとも、いえた。

一行は、かすみたなびく河内路、古市を出発、まず玉手山古墳の説明を末永博士に実地で聞いた。石器時代から永く人々が住みつき、弥生式文化に移る間、大陸の周庭帯とともに、まだその形を残しているものが多い。

応神陵（恵我藻伏岡陵）は、堺の仁徳陵につぐ大きさだが、体積ではそれを凌ぎ、日本一という。陵墓監の方の好意で堀近くへ入ればいたるところに埴輪か、副葬品が見え、木陰にはキジの巣があって玉子が八ツ生み落されてあったなど、大阪から電車でわずか十数分の所に、二千年の歴史が眠っているのには驚かされた。

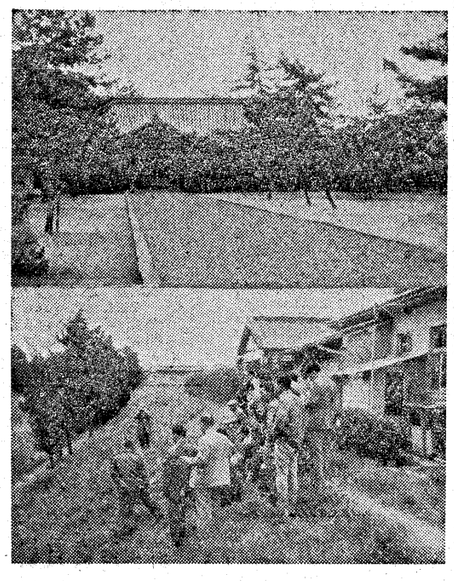
かって、御陵の周囲には必ず堀がめぐらされた大工事を見て、ある共産党員が、昔、人民を圧迫し、さく取した名残りだと言ったことがあるが、末永博士は「ちょうど天理教徒の日の寄進のように、住民は喜んでこの造営にたずさわり、広い堀もまた溜池の開発される以前には、これが、よやく盛んになった米穀栽培のための、欠かせない用水として利用されたと見ます」

の解説をされ、一同、まだ文化も低かった当時、すでに生活のための工夫が、この御陵一つ一つにも考えられていたのに驚いた。また戦乱の時は、御陵が軍の拠点になったこともある。

誉田八幡、墓山、仁賢陵、清寧陵、安閑陵、または日本武尊が伊勢で死亡したとき、尊の霊が白鳥となり、故郷へ帰ったと伝えられる霊肉分離の思想から営まれたという白鳥陵など、興味深い伝説など織り込んでの古墳群――。

また国宝に指定されている吉村邸の、四百年続いた家を訪れ、戦乱の中の豪族の、用心堅固な建築を見、最後に誉田林のお亀石（古代人の石棺）を見て、つづいの名所竜泉寺で夕食をとって解散した。

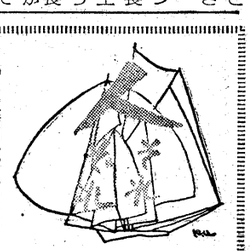
（カットは清寧陵。左写真は上から誉田八幡・周庭帯で末永博士の講義をきく一行）



お知らせ下さい

支部活動ならびに校友各位の異動については、出来るだけはやく左記へお知らせ下さい。

連絡先・大阪市大淀区長柄中通二
関西大学校友会「関大」編集部
宛　電話㊳二〇七二番（代）



▼「CM映画のむずかしさは劇場へ金を払って映画をみに来るお客さんに、CMが抵抗を感じさせるものであってはならない。ではCMをスムーズに導入させるには…といって、訴える力がなければならない。そのかねあいが大変でねぇ……」

東映が面期的試みとして生産＝販売＝消費というマス・セリングの現代を象徴するCMを映画にとり入れて、劇場CM映画の製作にとりかかってからもう二年近く、最近はカンヌの国際映画祭にもCM映画の部門が開かれ、東映からも五作品を出品、ようやくその認識が深まってきた折、その苦労談を語る塩崎氏の表情は明るい。

▼戦時特攻隊員ながら運よく生きのこり、昭和21年経済学部を卒業すると、戦時中の部下をたよって当時の大泉スタジオに入社したのが映画入りの最初、その間東映の不況時代には三、四カ月も給料の遅配がつづき、一個十円のイモを糧とし、正月のモチ代もなく、それだけに進行責任者として「ひめゆりの塔」を正月ぬきで完了し、ヒットしたときはさすがにうれしかったという。十周年記念の折は、そのいう。十周年記念の折は、そのを回顧して表彰されたが、学生時代から映画好き、それが今日の氏のすべてを築いたといえるもの、だが、軟派系に属する映画界にあっては、その点はかなり余韻があり、また女性の肉づきがいいという。演技課長時代、大川恵子、小宮光江、佐久間良子などを育てたというだけあって、女性を見る眼はたしかなようだ。

東映商事CM映画部長になった
塩崎　博氏

「だめよ！」という東京からみて、なんなんだ！」いやよ！」という時、「だめよ！」いやよ！」

▼大阪へ来て一番に感じたことは食い道楽と女性のよさだと。大阪弁がもっているニューアンス、特に女性の「いやわ！」

▼酒もタバコもほんのつき合い程度、最近はカメラにも凝り出したが、大の野球好き、東映ファンであるとともに自分でもやり、長男の東京学芸大附属小学校でPTAエラーズを結成、ホームランの記録が沢山あるほど……。

▼四十歳というから、これから働きざかり「今後も、なによりもいい映画をつくること、それにはヒューマニズムあふれたもので、考えさせられるものよりも、じーんと胸にこたえるもの、人間の共感性をもったものをつくるかぎり映画は絶対にすたれない」とはっきりといいきるあたり自信満々。病気らしいものはしたことはないというタフさ、そのあふれるファイトとともに、大川社長の期待もなみなみならぬものがあるというだけあって、今後の活躍がたのしみである。

× ×

万才にくつろぐ
会則を一部変更
大阪国税支部

国税支部秀颯会は六月六日（火）午後五時半から、心斎橋「東天閣」で本年度総会を開いた。出席者九十余名。名誉会長吉田磨之助氏が昨年母校評議員選挙に当選して財務委員長・長期財政副委員長として母校のために献身されているが、同氏から会員のご支援についてのご謝辞をかねて、母校の財政についての報告があった。来賓矢口学長、大月校友会長のあいさつがあって、議事は会則の一部変更（会計年度七月一日から六月末日を、四月一日から三月末日に変更）の件を終って懇親会にうつり、席上、鳳啓介と京唄子、タイヘイ洋子・歌笑の万才が行なわれて、大いに笑わせるなど、にぎやかななごやかな会合であった。

遊覧バスで母校見学
恩師らと語り合う
岸和田支部

岸和田支部本年度総会は、新卒入会員の歓迎をかねて、千里山の母校大学ホールで、五月二十一日（日）に開いた。

当日は、発展する母校を訪ねて、学生時代の昔にかえってみようということで、岸和田から遊覧バスで千里山へ向かい、恩師・水谷英一先生、飯田正一教授らとともに、久井専務理事から学園設備の説明があり、将来の計画などについていろいろと話しをうかがったもので、充実の一途をたどる母校の姿を見て心ふくらむ思いで、各自学生時代をふりかえりながら、初夏の一日を心おきなく過した。

泉佐野支部
母校の発展を喜こび
工学部へ期待する

泉佐野支部春季総会は、五月二十七日午後四時から、泉佐野市商工会議所で、新卒生をまじえて、約二十名が集まって開かれた。

松浪支部長のあいさつにひきつづいて自己紹介が行なわれたが、最近の母校の近況について関心が深くその後の高速道路問題、工学部への期待などについていろいろと質問したりした。そして校友手帖ぶりに眼を細め、初夏の陽長を心ゆくまで語りあった。

（写真）上から愛知支部、宝塚支部の各総会風景

愛知支部
中山幸市氏が講演
約四十名が集まる

愛知県下にはおよそ三〇〇名の校友がおり、支部に青年部をおいて推進的な役割りをしている活動的な支部である。新卒歓迎の春季総会を五月二十八日（日）午後一時から名古屋市中区新栄町六丁目に新築した大平住宅名古屋営業所の四階会議室で、母校理事・校友会副会長極木信雄氏を迎えて開いた。

出席者約四十名、名簿作成ほか二、三の議事があったのち、太平住宅社長中山幸市博士の"火災に因る災害補償"についての講演を聞いて第一部の総会を閉じ、第二部の新卒歓迎の懇親会は席を改めて、料亭"円庄"で五時半から開いて懇親の実を挙げた。

七月に支部名簿刊行
西宮支部

西宮支部役員会が六月七日午後六時から西宮市立労働会館で開かれ支部会員名簿作成の件について打ち合わせを行なったが、その結果七月初旬に刊行予定ですることを決めた。なお名簿には支部在住校友一、一〇〇名が収録されている。

各種自動車修理・販売
モーターブール・ドライブクラブ
いすず自動車指定サービス工場
花幸モーターサービス
大阪市旭区森小路一丁目
TEL㊸5312・4374

京都支部
相変わらぬたのしさ
新卒生をまじえて

京都支部春季総会は五月十三日（土）午後六時から、嵐山『渡月亭』本館で、新卒生をまじえて、会員約五十名が集まって開かれた。

大学ならびに校友会を代表して校友会門上組織部長が現況報告を行ない、会務報告などあって、自己紹介にうつり、懇親会にはいった。あいかわらずのたのしい集まりで、学生時代の思い出から話題がほぐれ、各会員同志の協力を誓いながら、会員学歌を合唱、十時過ぎ、秋季総会での顔合わせを約して散会した。

千秀会空手部OB総会
西村氏を名誉会長に

千秀会（空手道部OB）第二回総会が、五月十日午後七時から、大阪・南の「鳥よし」で関係者もまじえて五十名近くが集まって開かれた。

昨年の十一月に発足して以来、後輩のため精神的にも経済的にも空手道部の隆盛に努力するという主旨のもとの結束されたもので、名簿の作成とともに春秋二回の定期総会を開くことを決議して、より一層の充実をはかるようで、会員が努力することを誓いあった。

なお、この席上で西村治三郎顧問が名誉会長に推選された。

当会の役員は左記の通り。

名誉会長　西村治三郎
会長　三木　豊
副会長　入江一美、瓜生康浩
幹事　森本靖一郎

皆さまの家庭を事業を護る
同和火災海上
社長　岡崎真一

校友会費をご納入下さい

校友各位にはますますご健勝のことと存じあげます。「関大」も創刊以来六年余をかぞえ、関心の高い一般社会問題などもとりあげるとともに校友会紙としての役割りもはたしてまいりました。

母校も創立七十六年をかぞえ、校友数も六万八千余に達しております。校友会もこの多数の力を得まして支部活動を活発に、大阪府内全行政区ごとに強固な組織をつくり、講演会その他の活躍に大きな成果をあげております。さらに今後の発展のため、校友のみなさまに本年度会費のご納入をお願い申し上げます。

会費は年会費制と終身会費制の二本立てになっております。

年会費　三〇〇〇円
終身会費　三、〇〇〇円

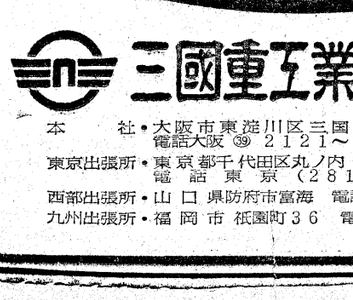
お払い込みにお手数のかぶける終身会費をお願い出来れば幸いです。現在、大阪市内およびその近郊都市には本部から集金係員をさしむけておりますから、おうかがいの折はなにとぞよろしくお願い申し上げます。」

集金係員　垂水富子、寺田文枝、高木鈔子、山本先江

昭和三十六年六月十五日

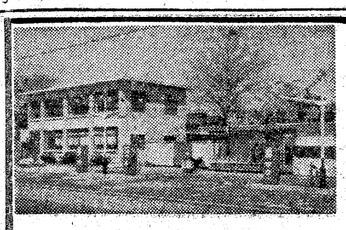
関西大学校友会

各種袋物鞄襄現金問屋
株式会社 廣島屋
専務取締役　蔵田広造
（昭和25年経済本）
営業所　大阪市東区博労町一丁目二六
電話本町㉖局　（三五二六〇〇番）（八二六〇〇番）



コンプレッサー　ファキュームポンプ　ブロワー
ORIGINS FUJI
三國重工業株式會社
本社・大阪市東淀川区三国本町3丁目326
電話大阪㊴2121～2125・0374
東京出張所・東京都千代田区丸ノ内3丁目（三菱21号館）
電話東京（281）4571～5
西部出張所・山口県防府市富海　電話富海10・62
九州出張所・福岡市祇園町36　電話東③1682

電気工事　計装工事　設計　施工
使う身になって設計し確実に工事する
近畿電気工事株式會社
本社　大阪市北区南扇町11　電話（大代表）大阪312局1281
支店★支社　大阪北・大阪南・京都・神戸・姫路・奈良・和歌山
滋賀★名古屋・広島・東京



創立三十周年記念
丸善石油株式会社特約店
小林産業株式会社
取締役社長　小林君次
本社　伊丹市南本町一丁目一八番地
電話（伊丹〇三七七）五三二二五番
出張所　大阪市福島区茶園町一〇三番地
電話（四六）〇九一四番
サービスステーション　伊丹市北村西岡街道十字路
電話（〇七八）三四二〇番
給油所　伊丹市本町
電話（〇七八）八六三二番
石油倉庫　伊丹市宮池町三六番地
電話（〇七八）三四八〇番

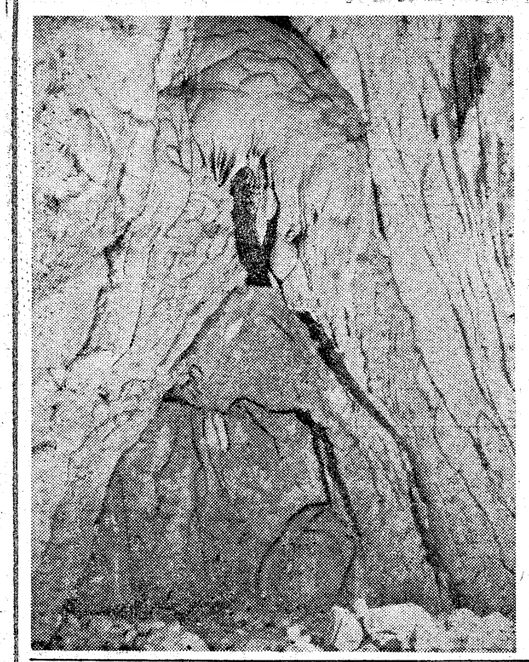
真鍮製品
アルミ鋳物
鈑金加工
パイプ曲加工
株式会社 笠松金属工場
取締役社長　笠松福松
大阪市大淀区長柄浜通二丁目二一番地
電話第一営業・真鍮製品・アルミ鋳物㊸一五二〇番　六三八四番
電話第二営業・鈑金加工㊸六九四四番　九七二二番

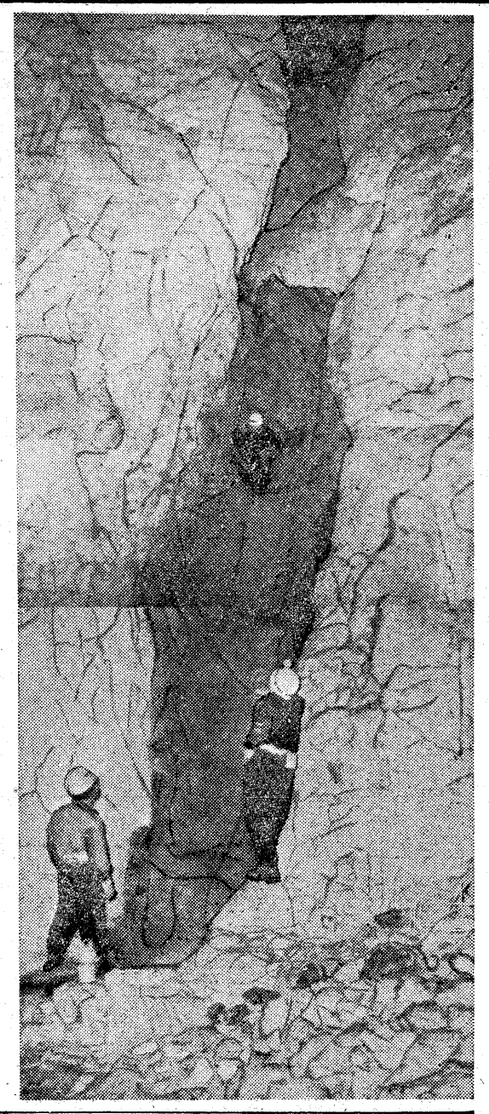
探検部、65メートルの鐘乳洞へ初降下

新見地方鐘乳洞群の踏査レポ

関西大学探検部はこれまでにも離島調査などを行なっていたが、さきほど岡山県の西北部、新見地方の鐘乳洞群を踏査した。

伯備線新見駅から北方に鐘乳洞がむらがる地帯はちょうど中国山脈にあたり、歴史的にも先史時代の遺跡が多く学術的な注目を受けるところである。探検部がはじめに調査を計画したのは、この洞窟群の西北、高梁川をすこしさかのぼったところにある無名洞であったらしいが危険なため土地所有者が立ち入りを許可せず不成功に終った。これは土地の話によると四〇〇メートル入ってもまだ果てしがないといわれ、それが真実とすれば日本一のもので文学部助教授・杉原弘人氏を隊長に、米川、松村、近藤、小野君ら十三人で探検隊を編成して調査した「三ッ穴鐘乳洞」も未踏査のもので垂直六十五メートルの深さをもつタテ穴であった。今月は大規模な鐘乳洞を写真と隊員・米川利美君（経三）のレポートで紹介しよう。（広報部）





今回の探検調査は無名洞と日咲坂鐘乳穴（ヒメサカカナチアナ）および井倉洞などの概念図の作成と専門学的調査の予備踏査が目的であった。しかし主力をかける予定でいた無名洞は土地所有者が危険だということで入り口を閉鎖していて立ち入ることができなかった。この工場の話では一昨年、石灰岩を採取するため工員をいれたがその話では四〇〇メートルはいってもまだ奥へたどりつかないという。これが事実とすればおそらく日本一の横アナであろう。

そこで私たちはススキの草原の中に文字通り三カ所に穴があいている「三ッ穴」と呼ばれる縦アナにはいることにした。これももちろん処女洞でどれだけの規模のものかわからない。

地元では明治年代に人が落ちこんだとか牛が落っこちたとかいう話があり、私たちが踏査することに異状な関心を寄せ、この日も地元の人々の希望で一行が二班に分れて行動することにした。先年コケの新種が発見された羅生門と呼ばれる洞窟は深さ三十五メートルばかり。懸垂下降して洞内の測量や採集をしてでてきたときにはすでに暗くなっていた。垂直散歩としゃれこんだつもりだったが、いささかしんどい。

また、ここからやや北にある「通り穴」といわれるところは近年、眼のないクモが発見されたところで、名前の通り上下に洞口がある約二百メートルのトンネルである。なかには落差五メートルほどの竜が二カ所あり二百メートルのトンネルはずっと水が流れている。運悪く雨のため「三ッ穴」踏査は四五日見合わせたのち行なった。

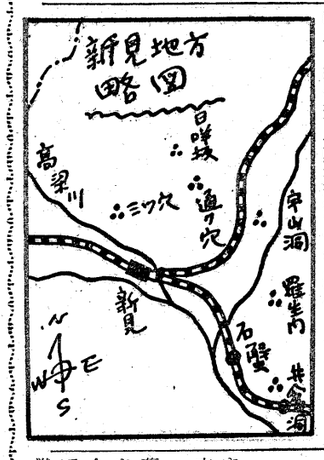
三ッ穴は文字通り三カ所に穴があり、この付近一帯は夏には牛の放牧場になる高原だ。この三ッ穴にはまわりに盛り土をし柵を施してあるので一見してわかる。なるほど大規模な縦穴らしい。対象を前にして初めて岩登りをはじめたころの緊張感のようなものがよみがえった。いよいよザイルで確保してもらって踏査することになった。一本のかなりしっかりした木が洞口の上にあり、そこにとりついてにぎりこぶし大の石を落した。

落下音が耳につくまで八秒間。そこでまず距離測定用電線をそろりそろりと降ろしてみる。十メートル、二十メートル…何の障害もなくすると降りてゆく。六十メートル、七十メートル…手にショックはない。みると八十五メートル。こりゃおかしい。やり直しだ。こんどはカーバイトランプをくくりつけて慎重に降ろした。何の障害もない完全な垂直の壁らしい。ランプがとまった。何回くりかえしても四十五メートル。この日は他の穴を三十メートルまで下降しただけで引きあげた。

翌日、いよいよ下降だ。市役所の車で現場近くに着いたのは九時半だった。新聞社でもわれわれの計画を知り記者がかけつけ、また前回この処女洞探検を試ろみ失敗に終った岡山の高校の大野、丸野両先生も応援にかけつけて下さった。入洞開始が十一時半。付近は絶好の確保用石灰岩があり六十メートルの命綱を降ろし、三十メートルのザイルで下降することにし、二十五メートルの縄バシコをロープにくくりつけて降ろす。結局三本。大野先生が前回の経験をいかして先導して下さった。洞底に到着、やはり四十五メートルだった。しかしまだまだ奥があるらしい。つづいて私が降りる。懸垂下降で体がぐるぐる回り、連絡用の電話線が体にからんで苦労する。暗黒の世界だけに高度感がなく、その点は楽だ。この洞底と思ったのは第三のテラスで七十度くらいの傾斜で下につづいていた。電話で地上に付近の状態を報告する。

地上班はまず昼食にするとのことだ。その間、私たち二人はずんずん奥へ進む。しかしこのあたりは地上から落ちた石ころや木片がごろごろしている。横穴は十メートルで垂直となり、慎重に降りきると、ここは完全な洞窟である。一坪ほどのせまい部屋で水が溜った跡がある。結局地表から六十五メートル、距離にして七十五メートルであった。コウモリはヘッドランプの光りを近づけても全然動かない。それでも上を見あげるとたくさん飛び交っている。周囲をくまなく見回し、わずかのすき間から非常に大きい空洞を発見、最長は五、六十メートルの長さと推定される。処女洞なので水のしたたり落ちているところの鐘乳石はとても美しい。さわるとポロポロともろくくずれる。気温は十二度、すこし寒さを感じる。ウサギかキツネと思われる骨を鐘乳石のなかから採取した。これは現在鑑定を依頼しているが、地上から落ちこんだものだろうか。ふたたびもとの場所にもどりジュースを飲み、キャラメルを口に入れて一息いれる。いよいよ地上へでるのであるが真径十メートル近いまっすぐな縦穴が四十五メートルもつづいているのだ。ザイルでしっかり体を確保し縄バシコを一段づつ登ってゆく。縄バシコを登り切った。二十五メートルだ。ここでザイルで体を確保し、宙ぶらりんになり、その間に地上から縄バシコを引っぱり上げてもらう段取りだ。やっとの思いで地上にでた時は一時半を過きていた。この方法にこりて大野先生を三本のザイルで三カ所から総勢二十余人でひっぱりあげることになったがこれがまた大へんだった。四時すぎに大野先生も無事地上にでてきて、われわれ二人は記者団の質問攻めにあった。

いろいろと説明しているうちにこの足の下のあのすごい空洞が音をたててくずれ落ちそうな錯覚におそわれた。ここは二階建ての世界なのだ。われわれはさらにこの洞窟に科学のメスを向ける用意をつづけている。（本文は初踏査した米川利美君（経三）のレポート「新見鐘乳洞群探検記」を本紙で適当に書きかえたものである）

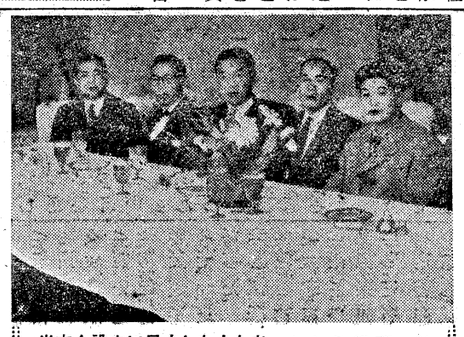


写真説明

右＝新見駅付近一帯には多くの鐘乳洞があり、横穴部分にはこの程度の滝は無数にある。たえず水が静かに流れている。写真は打ちこんだハーケンのザイルをたよりに滝上部を調べる探検部。

左＝石灰岩中の割れ目を流れる地下水の溶解作用でできる鐘乳洞は秋芳台や高知にもあって有名。とけた炭酸石灰分が沈積してさまざまの形をした鐘乳石になる。写真は横穴部の天井にできた鐘乳石。

中＝宿舎で調査結果の検討と翌日の活動方針を協議する探検部員。



尚志会設立に尽力した人たち・左から後藤、今倉、道之前、鵜飼、谷本の各氏＝二年前尚志会を設立したあと校友会本部櫻木副会長、村上事業、門上組織両部長らと今後の運営を協議したときに写したもの。

大学も各と「生協」結成に力こぶ

すでに全国60余大学に

関大も学生会館完成を機に

値上がりムードをしり目に比較的安く生活用品などを供給しているものに大学生活協同組合―略して生協―なるものがある。

これは大学で在学生や職員が組合員になり、いくらかの出資をし、それを基金にして学生や職員に市価よりも安く供給しようというもの。この生協をつくる動きがいま各地の大学でさかんだ。大阪近辺をみまわしても、すでに同志社をはじめ、京大、阪大、大阪市大、関学、神戸商大、奈良女子大…と官公私立を問わず、すでに全国では六十以上になっているという。

全国見わたしてもっとも規模の大きいのは東の東大と西の京大で、京大など今年度予算が三億数千万円というからおどろく。学生と教職員、事務官り約一万の組合員がいて、経営分野も広く、雑貨、学用品、電気器具、書籍、食堂、喫茶店、クリーニング、D・P・E、洋服あつらえ、クツ、理髪…とびつくりするほど広範だ。

また、百貨店の外商部が顔まけするような外売部もあり教職員ら高所得組合員にさかんに売りこみをやっているありさまだ。しかしなんといっても対象は〝ブトコロの乏しい〟学生が相手である。だからこの制度の完備した大学付近の業者はまったくのお手あげだ。

共通の利害をもつものがおたがいに助け合おうとするところに組合制度が生まれるわけだが、学生のこの種組合の歴史はあんがい古く、明治三十一年に同志社に生まれたのがはじまり。その同志社もいまでは一万二千の組合員をもち、今年は売りあげ二億円が目標だといわれる。

新築の学生会館の一部を生協の設備にあてている関学は私学のデラックス版だといえよう。組合員約一万名、売りあげは年間八千万円といわれる。その他、地方の各大学でも組織は小さくても組合をつくってその実をあげているところが多い。

これら生協の運営は組合員である学生や職員から、運営委員を選び、その中から理事や専務理事を選ぶ方法をとっており、運営方針も重大な件は組合員の総意をくみいれるようになっていてとても民主的である。

また組合加入も強制、任意まちまちで、任意制の同志社など、学生が90%、職員は60%が加入している。主体は学生であるから、90%の加入があれば、まず本来の目的通り進んでいるとみてよかろう。

組合費もまちまちだが、ほとんどは入学時一口五百円となっているようだ。

しかし、このようにトントン拍子に進んでいるように見える〝生協〟にも悩みが多い。

従業員のベース・アップ…ETC。何しろこの好景気で賃金の安い生協従業員になるものがない現状であり、ベ・ア風はここにも吹きこんできて〝労使〟が〝ベ・ア交渉中〟の組合も多い。

また各大学の生協が共同で組合をつくり〝共同戦線〟を用意しているというから、まったく商人顔負けである。

こんな現状にあって関大の場合はどうだろうか。

関大の学内食堂より一円安いパン一円安い牛乳で発足した厚生委員会（学友会）の活動も、だんだん利用者が増えている。小規模ながら売店がいろいろならんでいるが、これはまだ〝組合〟ではない。学友会厚生委員会が、学生に少しでも安く供給するために設けているもの。しかし〝生協結成〟の動きはないわけではない。

すでに五月三十日に開かれた学生大会で生活協同組合結成を議決している。関大の場合は都合がよいことには今秋に学生会館が落成するので、その完成と同時に発足するよう、すでに学友会古川厚生委員長らが協議のうえ準備を進めている。経営されるものは食堂のほか、交通公社出張所、郵便・電話業務、文房具、日用品、食料品、衣服など広い範囲にわたる予定である。

運営などは同志社のそれにならうことになるもようで、組合は任意加入の形式をとるが、すでに全学生が加入しようということになっているのでほとんどの学生が入るほか、教職員もほとんど加入するとみられている。組合費は五百円で新入生は新入時に授業料などと一括納入することになるもよう。途中で生協の運営に不満になれば脱退も自由で、卒業時には返済される。

〝よりよき教育者〟に

「活動方針」この一点に集中

職域めぐり

尚志会の巻

氏や谷本生海氏らが集まって準備にかかったのがさる三十三年、尚志会が生まれてからすでに二年半になる。それも単に二大勢力に対する団結力をもつことなど目的でなく、教育の重要性をよく認識し会員同志の親睦をはかり、おたがいに教育の問題を話し合い、忠告し合い、教育に対する憂情と考えを深め、より教員らしくなっていこうというレッキとした建設的な意見をもって発足したものであった。発足当時は会員数一三〇人くらい。

これより以前から大阪府下教職員の中学校に在職している。

そこで一日、尚志会の活躍ぶりなどを聞くため中井光次書「大阪市立相生中学校」の大表札のかかった正門をくぐって道之前尚志会会長をたずねた。

尚志会の目的をたずねたら、結成当時の目的と一向もかわっていないとのこと。

中学の先生であって一年から三年まで、生徒がどんなことを習うのか知らないようではダメであることだ。しかし結りがないということで、どこでも同じ評を聞くからこれは間違いなかろう。大阪市立の各中学校が寄って教育研究会というのがある。中学生は進学か就職のむずかしい岐路にたっているわけで学校での職業指導も重要なものだ。教育研究会でも職業指導部をおいているが、道之前氏はその部長もつとめている。

関大チームはこのあと六月十五日から東京・明治神宮球場で行なわれる今年度大学野球選手権大会に駒を進める。関大は高木監督のもと、村瀬をエースに川辺、佐賀らがおり、打の面でも首位打者の藤井を中心に関・関戦でも本塁打を放った井上ら、・二九五というチーム打率の陣容でたたかうわけで善戦が期待されている。

私の方には現在関大出身が四名います。その他各学校の出身者が混っているが、どの先生にも母校の同窓会などの折はどんどん遠慮せずに行きなさいといってるんですよ。遠慮したりすると、自分の母校の同窓会だのになぜそんなに遠慮するのだとしかるんですよ。

派閥など問題にしない立派な遠慮である。尚志会会長としてまことにたのもしい。

しかし、この尚志会が発展するためには後進がどんどんでてきてくれなくてはならない。道之前さんは「もっと勉強してくれなくちゃ…」という。昨年も教育実習にきた学生に「キミたちはほんとうに先生になるのか」ときいたらほとんどがニヤリとしたという。教えることのむずかしさをつくづく感じたのだろう。

とにかくどんどん後進がはいってきてほしい、それが尚志会発展の第一条件だということだ。昭和二十年後半の卒業生がいまでも圧倒的に多いんだから、これからも道之前会長を中心に伸びてゆくことだろう。

後藤正身氏は阪南中学校長でいま母校の評議員、校友会の常議員もつとめる温好な人柄だ。この後藤氏が相談役になり、会長に道之前直一氏が選ばれた。道之前氏は七年前に相生中学校ができたとき以来ずっと校長をつとめるが、後藤氏とはうってかわったタイプ。あとの三人は緑中学校長の足立信治氏、大正西中学校長・今倉恰氏、田島中学校長・藤原一馬氏である。そして一八〇名の先生が約八〇人。校長が五人だ。前会長の八・三・三・四といえばもちろん現在の学制による小学、中学、高校、大学の年限である。

そのいずれもが大切なことはいうまでもないが、六年間の初等教育を終えて、〝大人〟への橋わたしの役割りをもつ中学校の重要性は大きい。

大阪市内の公立中学は現在分校もあわせて約百校ある。その百校ほどにざっと四千人に余る教員がいる。

中学校、小学校の先生といえば昔は師範を出た人が多数をしめ、一般大学出身者はとても少なかった。大阪一円は池田、天王寺両師範学校があって、教員界というものは非常に派閥意識の強いところで、その風潮は両師範が合併して大阪学芸大学となった現在でも強く残っているようだ。今の学芸大学は二年間を池田・天王寺両分校で学び、あとの二年は天王寺で一しょになる仕組みである。それでも分校がどちらであったかで派にわかれている。〝教育界〟にあってこれは外部からみていてどうもすっきりしないことだ。校長がどちらの派に属するかは問題にしない。

それに専門委員の高橋といずれもキスパートになることはもちろんです。それぞれが担当科目のエ夫をしあい、忠告し合っていきたいと思っている。そんな点からも、この会が役に立てばと思っていますがね。

ということだ。よりよい教育者となるためにこの会ではおたがいに話し合い、忠告し合っていきたいと思っている。その点、関大出身者はすなおですねともいう。自由な学風に育ったせいか、一般的にいってすなおで適応性があるという。

関大出身。しかも各中学に一名ずつおかれている委員にも何名かはいっている。

この研究会職業指導部が中学生の進み方の重要性を認識して「中学生の進路」という本を編集しているが、なかなか評判よく、すでに十五万冊ほど出版され各校で教材として利用されている。このように活躍している道之前校長にもう少し話してもらおう。

スポーツ

関大の完全優勝で閉幕

関・関戦にも連勝　22回目の優勝かざる

さる四月から行なわれていた関西六大学野球春季リーグ戦は六月三・四両日の関・関戦を最後に閉幕、関大が通算二十二回目の優勝を勝点5の完全優勝でかざった。

今シーズンの関大は対京大二回戦で大敗した以外全試合に勝ち、11戦10勝1敗（勝率・九〇九）の成績をあげ、二位以下は同大（・六六七）立命（・五四五）関学（・四六二）京大（・二七三）神大（・一六七）となった。

京大が神大に勝ち最下位を脱したことも注目されることであった。

閉会式は四日関・関二回戦終了後日生球場で行なわれ、優勝旗、優勝杯、賞記念品などが関大チームにおくられた。

また今シーズンの首位打者は打率・三八二をあげた関大の藤井栄治中堅手（打34、安13、点6）にきまり首位打者賞がおくられた。

関大チームはこのあと六月十五日から東京・明治神宮球場で行なわれる

ご便利な預金通帳
いつでもお引き出しできます
●家計預金
●普通預金
●証券運用預金
皆様に親しまれる
三和銀行

川柳

雑詠

山田菊人

指にダイヤかがやき内証絶えもせず
巧まずとも指輪きらめき恋を獲る
無理きいて帰える暖簾を振り込り
鳥ほどの卵を生めと餌を与へ
費言は要せずつまり運でした
運は遠い遠いところにあり駈けろ
べからずが多い日本に桜咲く
用心棒味方も斬って落ちのびる
朝酒に用心棒は身を清め
臆病な夜警が星に話しかけ

川柳

「関大スポーツ」発行

関大体育会がだした会誌の第一号でB5・一六〇ページ。各大学でも体育会で年鑑などを出版しているが「関大スポーツ」も今後はそのようなものになるらしいが、今度の第一号はこれまでの集約版といったところ。主として、かつて活躍したOBの思い出話、歴史が多い。ちょうど校友会で数年前に発行した「関大―関関戦特集号」そっくり。あまりにもりだくさんなため投稿のなかにも重複した話題が多い。吉田三七雄氏の「ごっつおはんで物語」などおもしろい。

雄弁会が南九州へ遊説

七月中旬一行50名で七日間

関西大学雄弁会では今年も例年通り夏期遊説を行なうが、今夏のスケジュールが決った。

それによると今年は南九州地方で遊説、地域団体との座談会、校友会支部との座談会を行なう。

遠征する一行は約五〇名で飯田、桜田両教授が同行し、七月十二日に大阪を出発する予定になっている。期間は七日間で、そのあいだに二十九校で講演会を開くほか公会堂・市民館七カ所、街頭演説会七回も行なわれる。

一行は七月十九日の宮崎市公民館での催しを最後に全日程を終り、翌二十日現地で解散の予定。

よろず相談

この欄を手帳にいろいろの相談にご利用下さい。はがきに要旨を書いて「関大」よろず相談係へお送り下さい。ただし、卒業年、氏名、住所を明記しなう印して下さい。〆切りは毎月5日ごろ。営業広告は掲載できません。

縁談

▽求妻・当方昭26専二商卒、31才。府下在住、会社員。一六〇㌢五二㌔。相手希望条件は高校卒以上、容姿普通程度。二十五―七才（75―1係まで）

その他

▽職域会を作りたい・人事畑の先輩校友と共通の問題を語りあい、ご指導を仰きたい（花屋敷ゴルフ倶楽部労務担当・三宅啓正）

ビールは楽しいものです
人の心を明るくします
和やかな雰囲気をつくります
ビールはアサヒ

ルロ鉛筆ならこのマークみつびし えんぴつ

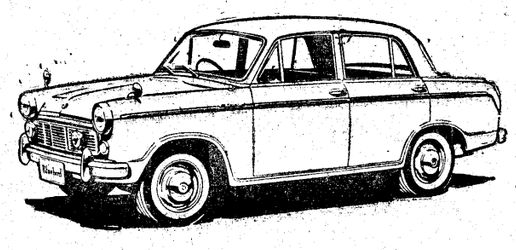
●ビジネスにレジャーに
グッピーは貴方のマスコットです！
新発売￥225,000
最高速度 80キロ／時
燃費 1リットル30キロ
軽免許で乗れる
二人乗100Kg積
コニーグッピー
大阪ヂャイアント株式会社
社長 大橋博
大阪市福島区下福島5―18 電話此花㊹（代表）5851番 6851～7番

銅板・黄銅板・燐青銅板
株式会社 豊崎伸銅所
代表取締役 秦眞吉
本社・工場 大阪市大淀区長柄浜通一丁目三番地 電話大阪㊱八五五一～四番
東京事務所 東京都中央区銀座西七丁目八番地先 電話東京（五七一）三七四三・六〇二三番

バスボデー 宣伝車 特殊車 製作
東浦自動車工業株式会社
大阪市旭区生江町四丁目一〇〇番地
電話堀川㊴〇六㊷・三七三・㊹一〇・六〇三
寝屋川工場 寝屋川市太間一八〇
電話 寝屋川 一二八・二六九

新種保険発売！

このしあわせを まもるもの…
年金付 家族収入保険
「まごころの奉仕」
を続けて73年
朝日生命

ダットサン ブルーバード

走るベストセラー
本格的5人乗 小型乗用車
NISSAN 大阪日産自動車（株）
本社 大阪市福島区下福島1―4 電㊹7951

消えていく大阪の橋

駐車場にかわる長堀川

大阪市史編集委員・川端直正

大阪の橋の数は、戦後盛んに市内の堀が埋め立てられて、一見非常に減ったように思われるが、二三年末の一九四橋は、三四年末では一四六橋を数え、むしろ緑数では増えている。市内の中心部にあって永年市民に親しまれていた市内枝川のうちで、最近地図上から消えたものの、あげても、薩摩堀川、海部堀川、堀江川、江戸堀川、京町堀川、立賣（いたち）堀川・難波新川などと数多くある。こうしたことは結局は昔のように物資の移動に水運が利用されていないためであるが、戦後悪水が停滞し衛生上からも、美観のうえからも、さらには防潮対策の点からも思いきって埋め立てが必要となり、廃川敷の新しい利用がおこるようになった。

近松の戯曲に名高い蜆川一名曽根崎川も、明治四二年の北区の大火後なくなり、いまその川に架っていた桜橋の名のみを市電交叉点に残すのみとなり、南の方の桜川も暗渠となって、その上を湊町から大正橋の方に行く市電の通路に変って、この川のあったことはすでに忘れられてしまった。難波新川はいま大阪球場の地にあった幕府の米蔵である難波御蔵への水路として、享保一七年（一七三二）開さくされ、その際貧民に土砂を運搬させたところから、一名極貧堀の名もあった。この廃川敷の跡は一部が市バスのモータープールなどとなっていて、今ではまだその跡をたどることが出来るが、西区の薩摩堀川跡などには、はや家が建てつまってしまい、現場に行ってもその川跡が容易に判らなくなっている。

難波新川に架っていた、大阪相撲に関係の多い土橋、あるいは遊連橋や、江戸堀川の花乃井橋、京町堀川の茂左衛門橋、阿波堀川の大郎助橋、立売堀川の宍喰屋（しくいや）橋、堀江川の高倉たかき橋など、子供の時からなじみの深かった橋や珍奇な名前に興味を湧き起させた橋も、いまはなくなって、大阪生まれのぼくたちにとってはまことに寂しい思いがする。ところが最近の新聞にも出ているように船場と島之内の境を流れる、市内の中心水路である長堀川がいよいよ本格的に埋め立てられ、川筋は新しい道路と九〇〇台収納出来る近代的な駐車場に変ぼうされようとしている。この長堀川に沿う道路は都市計画九条深江線として、東大阪一帯からの物資の流出入路として自動車の利用も最も頻繁なところで、いち早く道路の拡幅を要望される場所であった。そのうえ南の繁華地に接触しているため、従来駐車場代わりに道路上が占有されていて、いよいよ交通のふん詰り状況を呈していた。

そこで思い切って東横堀川のためにつくられた。

もともと船場・島之内を取り囲んでいる大川と東西横堀川は、慶長五年（一六〇〇）以前の開さくといわれ、ついで道頓堀川が元和元年（一六一五）大阪冬之の陣のあとに竣功し、それから二〇年遅くれて長堀川が、寛永二年（一六二五）に出来上った。この川が生まれて東西横堀はもちろん、木津川とが市内中心に最短距離に結ばれることになり、沿岸地帯の開発は急に盛んとなり、いまもその名残りが十分示されているように材木浜として材木問屋が櫛比することとなった。僕たちの子供の頃、浜に出ると、柳の影が川面にうつり、筏流しの木挽歌が時折聞くことが出来た。この材木屋は主に西長堀の方に片寄っていたが、最上流の安綿橋の両岸には住吉本邸があって、如何にも古風な木造洋館が見られた。

安綿橋は総年寄の安井九兵衛と綿屋某とが架設したといわれているが、東横堀にかかる末吉橋はこの橋のためとに、御朱印船で名高い平野郷の末吉家の邸がその西詰めにあったためで、あるいはこの長堀川も末吉の開さくになったものかとも思われる。心斎橋は世人に名の起りについては、あるいは心斎という茶人があったとか、新羅町の転訛であるとか所説紛々である。しかし今のところどの説も確かな根拠はなく不明というより仕方がない。ただこの橋は明治六年三月大阪最初の無蓋鉄橋として生まれ、さらに四二年一月また初めての眼鏡式石造橋として付替えられ、架設費七万三千円として世間に喧伝された。長い間瓦斯灯がついていてなんたく気品があった。

四つ橋は元禄時代の俳人小西来山の「すずしさに四つ橋を四つ渡りけり」と、同じく俳人上島鬼貫の「後の月入て貌よし星の空」などの句で、いまも橋のたもとに二つの建碑があり、人に知られている。摂津名所図会にも「二流十文字となり、橋を四方に架渡すなり。四つ橋の行人、漕きわたる船の往来も絶え間なくして、風景斜ならず。ここに源蔵張と云ふ煙草の店あり、世に名高し」とある。

難波橋は家島の宮浦、そのまま真浦という桟橋で荷物と人がかなり下りたが、ともに同じ港内である。宮の民家は六百近く細長い入江に沿って階段教室のように急坂の斜面に積み重なって建っている。平地というものが全然ないのである。

ここには孤島というような感傷的なものはかけらほどもなく躍動する近代的な港の風物である。深い海が二つの岬に抱きかかえられたように湾入していて、漁船や、貨物の機帆船がぎっしりひしめきあって碇泊しているし、発動機の音がひっきりなしにひびいている。竜骨を並べた和船の造船所も二つ三つ、思いもよらぬ活動的な港であった。

しかし、その入江に沿うて、細い舗装の路を奥へ歩いていくと、路傍で女の人が網の修理をしていたり、東北の背負籠のようなもので荷物を運んでいる姿も残っているし、すっと進んで部落の一番奥までいくと、最近まで三方村に一つしかなかったという泉が、そのままの姿を残してもいる。小島のことであるから飲料水には不自由ではないまでも、小さい島ながら天然の資源と旺盛な活動力に恵まれた島民生活は、非常に進歩的なものが見られる。

いまは廃れたようになっている三尺くらいの深さの水はいつでも湧いていた。島中のものは山を越えて、みんな水をかつぎにきたし、いま家のあるあの辺まで海やったから船で水汲みにくる者も多かった。ここばかりは昔から、市場のように賑かなことやった」

かたわらに地蔵堂がひとつ、水底には落葉が二三枚沈んでいて、水はなお澄みきっているが、いまは殆んど使う人もないらしい。およそ千五百戸の飲み水であったという泉が、この島に残るただ一つの伝統的な姿のように思われた。私が期待してきた石切唄や、船唄は全く消えてしまって、さきには都会の夜の盛り場で見かけるような女の社会人さん門付けして回っているのを見かけたほどであった。泉のほとりから山を越えて裏がわへ回ってみた。網手（あで）というその浦には船の修理所が一棟、山陽電鉄の海水浴場施設とバンガローがある。シーズンオフで人の気はなく、せんだんの木のふじ色の花がきれいに咲いていた。めずらしく砂浜になっている渚にあゆみ板をかけた船が一艘、坊勢島への渡し船だというから、一時間に一度出るというその船に乗って二〇〇の海を渡ってみた。

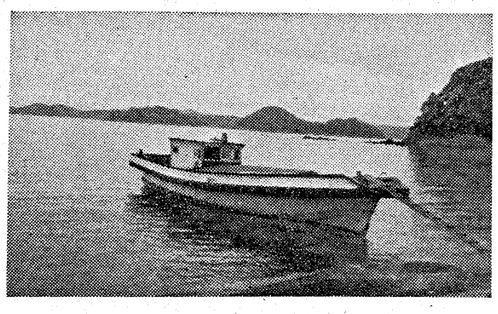
坊勢はさすがに家島ほどの繁盛はなく、坂道と、積み重ねたような家は同じであるが、どことなくひっそりしている。家々に天水を溜める大きな水槽があり二つずつバケツのあるのが心をひく、この島も水道がひかれているが、ちょうど水道が、海底で碇にひっかけられて破損して水が出ない時であったら、バケツはまた新しい使命を荷っていたようである。

島の頂上は広く麦畑になっていてうす茶色の畑で刈り入れしている人があった。「Solitary reaper」のいうワーズワースの詩を何となく思い出す。私のすきな柔かい音がリズミックに聞こえてくる。

ときににぶいダイナマイトの爆破音が聞こえるのは、どこか遠い島で石を破っているのであろう。

どちらを見ても島、大小高低、姿は一つとして同じものがなく、その遠近もさまざまな島、人の住む島は四つしかないが、有名無名の島を合わせておよそ八百というが、うその八百ではないらしい。

（写真・島をつなぐ渡し舟・向こうの島は坊勢島）

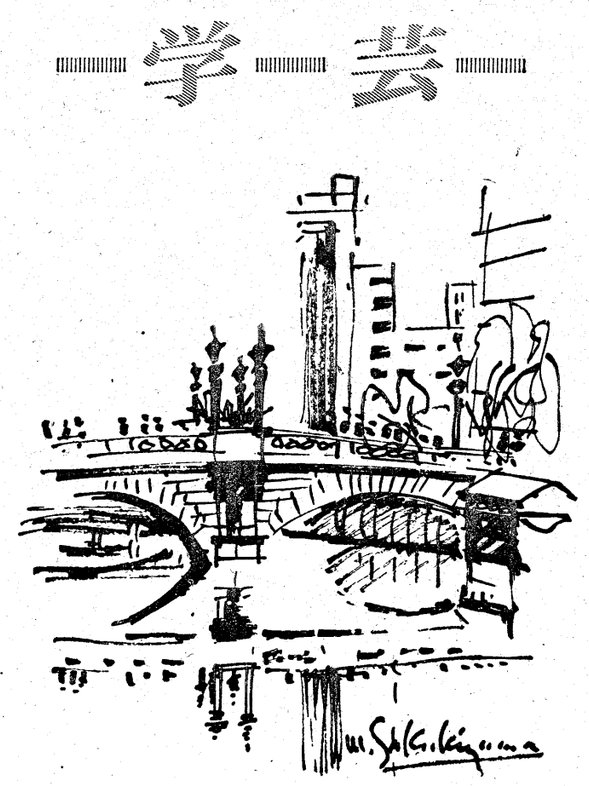


日本ところどころ

唄をたずねて

藤本浩一

家島



心斎橋・榊山勝

「上方文化」創刊にあたって

上方文化振興のために

大阪文化研究所理事　横田健一

大阪人として存在したことによって、大阪ブームの一端のライトに当るのがいやなのである。

よく「あなたは船場のこいさんだそうで」といわれるが、そのたびにどう答えていいのかわからない。もちろん、厳密に言って船場にははいらないところの住人だったからではあるが、それよりも「船場のこいさん」というのが一種の美辞、よろこばせる憂想の言葉として使われているのが胸にこたえるのだ。

私はいい。私は幸か不幸か、大阪の女にうまれついた。でも、日本各地あらゆるところに女がいる。自分はいい方にまわれるからといって、そんな心の発言に喜んではいられないのだ。

昔の大阪の堀割情緒はなつかしい。立売堀川と西横堀川の子宝地点に近かった私の家は、材木をひきあげる音頭が一日きこえていた。夏こうもりもとびかい、朝、夕の散歩にわたる橋や川風がたのしかった。都心とほおもわれない静けさが、いかだの上に漂っていたように思う。

四つ橋まで行って涼んでいると、夕べの満潮に川水が逆行して渦になっていた。人生の黄昏、その去就に悩み、心疲れて見入った長堀川の、川面もやがてなくなるという……。

変貌は生命の常道だ。変貌をおそれるわけではない。ただすこしでも、より良き変化であらねばならぬと、大阪によびかけ、みずからの心をたしなめるばかりだ。

（随筆家）

大阪の変貌

岡部伊都子

「丹波篠山山家の猿が」とやゆされ易い場所にたって、私なんかの及びもつかない立派な女性が、健気に、美しく女の生命を存在させていらっしゃるだろう。「船場のこいさん」をもてはやす心が、ふと気をゆるすと「丹波篠山うまれ」を鼻の先で笑う心につながる。自分はいい方にまわれるからといって、そんな心の発言に喜んではいられないのだ。

しかし、私が大阪についてきかれるのが心に重いのは、私と大阪がこのような間だからではない。私が自分の力でもなくたまたま大阪に生まれ、育った私は、何が大阪的なのか、かえって見極めのつかない状態に在る。他の土地人はちょっとしたひとことにも「それが大阪弁ですね。」などと感心されるが、私にしてみれば自分のいいたいことを、できるだけ理解され易いように、自分の言葉で話しているにすぎず、見馴れた看板の質の字にひちとふり仮名打ってあるのも、言われてみねば気がつかない。

生まれたところを良くいわれて、不足をいう筋はないのだけれども大阪ブームの余波でさまざまな大阪がとりあげられる。私なども単に大阪人だというだけでそういうライトがあたられる。そのたびにへんに心が重くなるのである。

私が自分の意志で大阪を選んでうまれてきたのではない点、好意にかかわらず心身に大きな作用をうけている点、大阪は私の肉親であるもゆさすもただごとではない。どちらにしても、肉親を語ることのいやらしさがついてまわる。

第二の標準語になろうといわれている。だが上方文化も東京文化に押されるのも、すいぶん長いことだ。

近代国家の構造と進みかたからいえば、中央集権はさけることができない必然の勢いだ。どこの国でもそうなのだ。社会構造が複雑になり、文明が発達して、なんでも大規模となり、産業でも、交通通信でも、土木事業でも、一地方自治体の手に負えなくなった。一寸したハイウエイ一本の建設にも数十億円かかるのだ。巨大企業がやるにしても国家の補助をまつものが多い。

こうなると会社も首都へうつり、税金の化けた補助金のうばいあいだ。人口が集中すると労働力を求めて工場もうつる。第二次産業も消費力のある首都に集中する。地方の人口ばかりでなく、金までもみな首都へ吸いあげられてしまう。田舎の人も東京の出版社のた本ばかりをよんで、銭は東京へ集まる。学校も東京へかよい、月謝は東京へはらう。郷土は遅えらない。これでは郷土の文化は栄えないし、文化も高まらない。

世界的にいっても、二十世紀の前半までは、先進国は巨大な資本主義や軍備の力にものをいわせて、後進国の富を吸いあげ、貧富の差は大きくなる一方だった。ようやく二十世紀の半はすぎて、これではイカンと気がついた。先進国の粋が栄えるためには、枝や葉の後進国から吸いとるだけではダメで、後進国も開発し栄えさせてやらねば行きつまりだと分ってきた。

これは日本の場合でも同じことなんだが、日本の政治家や官吏や実業家も、もう一つ分っていないのではないか。田舎を開発し、地方文化を発達させねば、中央もまた関西経済の地盤沈下が叫ばれて、だいぶ久しくなる。その一方では上方弁が上方喜劇フームにのって第二の標準語になろうといわれている。だが上方文化も東京文化に押されるのも、すいぶん長いことだ。

日本全体も栄えないのだ。東京が吸いあげるばかりではダメなのだ。平衡交付金や各種補助金は、地方との差をうめるためのものだが、ナンと恩着せがましくくれることか。もらう方も東京事務所をおいてセッセと中央の役人にご馳走したり、代議士に陳情することにムダ金と精力を浪費している。地方民も東京文化ばかりをありがたがって、自分の土地の、古文化やよさには案外なにも知らないことが多い。中央のおえら方がきて、これはすばらしいものだといわれて、へエとびっくりする。これでは東京と地方との格差はひろがるばかりだ。その当の東京はどうか。もう道路も上水道、下水道も公園も狭い、足らないで、のりものは満員、工場や車がみちあふれ、水キキン、糞つまり、悪い空気、汚水等々になやんでいる。その原因は頭の方では、よく分っているのだろうが。やるとは旧態依然だ。松方コレクションを収めるフランス美術館などでも、地方へもってゆけという意見は無視して、東京に作ってしまった。

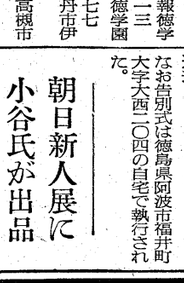
今の日本をもっと繁栄させるためには、もっと地方の経済と文化を盛りあげ、集中を分散へ、格差の拡大を縮小、解除へともってゆかねばならない。

そのためには、もちろん中央の政治家や官吏の頭の切りかえが必要だが、いたずらに彼等ばかり非難してもはじまらない。それよりも地方人が自覚して、郷土の繁栄策を考え、郷土文化を認識し、東京文化に血道をあげることをやめねばならない。自分たちの金は、その土地に還元して、郷土を肥やすようにすることだ。逆に東京の人間や金を、自分たちの方へ引っぱってくること、引っぱって来れるだけの魅力あるものにすることが大切だ。それにはいろいろのテがある。今回はそれにふれる暇はないが、われわれ上方人からいえば、もっと上方文化を自覚し、高め、魅力あるものにする方法を考えることが必要である。

昨秋発足した、関西大学教授末永雅雄博士を代表とする大阪文化研究所（事務室・関西大学千里山学舎法文第41号有坂助教授研究室）も、そうした上方文化の振興と研究のために、京阪神諸大学の学者ほか有志によってつくられた。もう今まで数回の講演会を行なってきたが、このたび機関誌「上方文化」が発刊された。雑誌編集のベテラン有坂さんの編集だけに、内容も充実し、面白いよみものがそろっている。校友のみなさんにおすすめしたい。また今後とも援助していただきたい。そして、みなさんと一緒に上方文化をさかんなものにしようではありませんか。

（関西大学文学部教授）

新刊紹介



総合郷土誌「上方文化」創刊号

昨秋、発足した大阪文化研究所から、このほど機関誌「上方文化」が創刊された。刊行の基本的目的は、まず自分たちの文化を育てるべき土壌を明らかにし、かつて日本民族文化の先進地域であった「上方」に検証のフィールドをもとめ、ほかならぬわれわれの、ものの見方、感じ方、行動の仕方のうちに伝わり、しみ通っている重要な文化的諸要因を、新たに発掘することである、と創刊のことばにもあるように、その内容もいって豊富で、上方文化論として、「上方文化の基盤」について里羽兵治郎氏が、「上方文化の将来」を井上吉次郎氏がそれぞれ執筆、中世大阪史の一駒として「渡辺忽官と渡辺・難波」を永島福太郎氏「好色一代女」からその文学形態について金子文兵衛氏、「上方語義の研究」前田勇氏、上方町人論から「大阪町人の性格倫法（上）」を富本文次氏、「淀三十石船唄」音代湘園氏、「近畿の民俗」沢田四郎作氏、さらに代表の末永雅雄氏が郷土史講座（一）「大阪地方の縄文式文化」を担当、「大阪城史話」（第一回）を岡本良一氏が執筆するなど、他に関西在住の学者ならびに研究家が各分野を担当A4版、一五〇頁の、なかなかの充実した総合郷土誌である。定価は一八〇円、〒二十四円、隔月刊で、年額は一〇〇〇円となっている。

山田繁雄氏個展

18日まで「ハクホウ」画廊

第五回山田繁雄氏（昭8専二英）個展が、六月十二日から十八日まで、大阪市・曽根崎上二の「ハクホウ」画廊で、近作色紙展として開かれる。

川柳作家として、最近は川柳よりもむしろ画業にいそしみ、昨年につづいてその精力的な制作欲はすさまじいものがあり大いに期待されている。

朝日新人展に小谷氏が出品

今年度の朝日新人展（絵画・彫刻・工芸）が六月二十五日まで高島屋三階ホールで開かれるが、校友の小谷公清氏（昭33学一経・行動美術会友）も選ばれて出品することになった。

人事

ご結婚

▼南佐和男氏（昭31学二法・美津濃大阪工場）は、五月五日豊中市立福祉会館で山本閑さんと挙式、新居を大阪府三島郡三島町千里丘二六九にかまえた。

▼富田和明氏（昭35学一文）は、四月二十九日、笹山延子さんと挙式、新居を布施市上小阪七六八にかまえた。

移転

▼友延勇（昭17専二法）兵庫県相生市相生五三六七

▼沢辺良一（昭25専一法・産興化学）大阪市旭区生江町二ノ八一

▼和田憲二（昭28学一経・大店）堺市開屋本町日本住宅公団向ガ丘団地二ノ四〇一

▼野中英世（昭28学一法・島巣新一法律事務所）箕面市新稲一五府営紅葉ガ丘住宅二〇

▼山本栄一郎（文学部教授）池田市宮之前町二六〇ノ三

▼西川静男（旧姓・杉村、昭34学二経・近畿車両）京都府綴喜郡田辺町大字田辺小字北里三

▼村上邦夫（昭34学二法・三和銀行枚方支店）八尾市末広町二ノ四一

▼村上博（昭27短大一・扇興運輸）大阪府北河内郡門真町門真二五

▼岡本明（昭35学一文）名古屋市中区南瓦町五八ノ二　吉田徹一方

▼樫田磯次（昭24大経・校友会代議員）和歌山市坂田二ノ八

▼吉田博次（昭27学一商）豊中市東豊中住宅公団十ノ三〇四

▼西崎義男（昭30院修法）京都市伏見区深草池之内町墨染住宅一三

▼舟木博史（昭35学一法）神戸市長田区前原町二ノ八ノ三

▼川原繁広（昭30学一法）吹田市山田下二一五八　青雲荘三九

▼森川利勝（昭26学一法）堺市市ノ町東四ノ三一　裁判所宿舎三一

▼川村達造（昭35学二国）尼崎市上島高田町一二

▼伊塚正男（昭26専二法・大阪陸運局）西宮市西平町一四七小林方

▼桂護（昭34学二経）枚方市香里ガ丘九ノ三二五一　大和紡績香里ガ丘寮

▼浅野幸彦（昭28学一商・報徳学園高校）西宮市御茶家所町一三

▼黒田博（昭29学一法・報徳学園高校）伊丹市御願塚別当三七七

▼上田敏（昭26専一商）伊丹市伊丹中ノ町四一三

▼小谷東三（昭13専二商）高槻市真上二三二

▼十倉周三（昭30学一商）池田市井口堂町二三八ノ一井口堂団地一

▼横田正義（昭36学一法）大阪市阿倍野区阪南町中一ノ二七　稚竹荘（やわたけそう）内

▼前田洋生（昭31学一法）大阪市東淀川区西淡路町二ノ六〇白苑内

▼石名末治（昭36学一商・日魯漁業）東京都府中市是政字横街道北二二四五　日魯漁業府中独身寮内

転勤

【　】内旧職

▼村上長槌（推）日立電線専務取締役【常務取締役】

▼松村陸鴻（大15大法・母校評議員・校友会代議員）鉄道弘済会大阪営業所長【関西支社総務部】

▼朝倉茂直（昭6大法）日本生命東京総局財務部長【料金部長】

▼沢農利勝（昭19専二経）大阪市立中学校教頭【南稜中学校】

▼細井三郎（昭12大法）兵庫県開発公社常務理事・管理部長

▼竹谷和夫（昭17専二商）兵庫県職員課長【人事係長】

▼瀬郷清市（昭8大法）神戸市中央市場長【監査委員会事務局第二課長】

▼仲野真夢（昭16専二商）神戸市調査室長【総務局企画課長】

▼福本孝一（昭20専二法）梅香中学校校長【今宮中学校】

▼金沢要（旧姓・深田、昭9専二法）此花中学校長【梅香中学校】

▼吉田三七雄（昭10大法・校友会常議員）朝日放送テレビ業務局次長【演出部長】

▼塩崎博（昭21大経）東映商事CM映画部長【東映製作課長】

▼高田一（昭29学二経）寺岡製作所総務部【東亜合成化学工業大阪営業所】、新住所＝茨木市大字戸伏二〇〇

▼河内利次（昭25専二経）段ボール製造常務取締役【聯合紙器】

▼寺田秀雄（昭33学一法）滋賀相互銀行京都支店【大阪支店】

▼岡次郎（昭30学一法）旭川地方裁判所【大阪地方裁判所】

▼上原洋允（昭32学一法）弁護士開業、事務所＝大阪市東区谷町一ノ二五堀川嘉夫法律事務所内

福本真一氏（昭3専経）は、かねてから病気療養中のところ、四月二十二日、死去された。告別式は二十三日、三田市の自宅で行なわれた。

水口茂一氏（法文事務室・水口博喜氏尊父）は五月十七日午前十時逝去。

なお告別式は徳島県阿波市福井町大字大西二〇四の自宅で執行された。

新発売
LION
ライオンペン
ダイス　ケース入

特許番号215608
アシモリが生んだ
世界のホース
ジェットホース
消防用・消火栓用
ビルディング用・かんがい用
芦森工業株式会社
大阪（27）7031・東京（241）2526

株式会社竹中工務店
取締役社長　竹中錬一
本店　大阪市北区堂島中二丁目三〇
電話・大阪（312）代表1251
営業所　札幌・仙台・東京・横浜・静岡・名古屋・京都・神戸・岡山・高松・広島・福岡・八幡

創立明治22年
株式公社債
ヒノマル・オープン投資信託取扱店
藤浪証券
社長　大島治郎一
本店・大阪市東区北浜二ノ九一（電（二〇一）五三三一（代）〇四〇六（代））
難波営業所・市電　戎橋　電停前　電（六三）〇六九五・〇六九八
花園営業所・地下　鉄花園駅前　電（六五）三一七一・三
八尾営業所・八尾　近鉄　駅前　電（〇二九）②二九六一・六八一二
氷上営業所・兵庫県氷上郡氷上町成松　電　成松〇四五〇・二

株式会社小寺不動
取締役社長　小寺小市郎
大阪市北区堂山町一〇番地
電話㊱八〇五一・五四番

研究社の英語雑誌
近代感覚漲る文化語学誌
時事英語研究
7月号・100円
映画台本栄光への脱出・テレビドラマ盗人（T. W. case作）特別寄稿東西演劇の融合（R. Benter）・教学の教育的価値（Adler博士）社説研究N. Y. タイムス・趣味のアメリカ俗語食べものとスラング（山崎英夫）・新語展望・漫画
広い視野・実力の源泉
英語研究
7月号・140円
米最初の宇宙飛行
■人間ロケット発射実況■ケネディ大統領の祝辞■シェパード中佐の記者会見（付録：LPレコード）
東京都千代田区富士見町二の一　研究社　振替東京28601

充填に　コーキングパテ
防水に　パテタイル
防音に　サタノック
あなたの工事の信用を高めるウヅラ印
・カタログ進呈・
柏原瀝青株式会社
大阪市西淀川区御幣島東2の5
第二工場　同上　西3の99
TEL　淀川・1943・1494・0423

OB速記事務所
大阪市生野区片江町6の87
電話　㊸㊹　2085　7634
橋詰幸一

友江火災
取締役社長　経済学博士　中山幸市